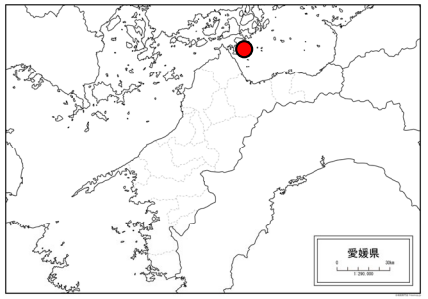
10.【水域：増殖場】魚礁と一体的に機能する増殖礁設置場所としての活用：志津見漁港（愛媛県今治市）

概　要

○志津見漁港では、漁獲量の減少や漁業者の高齢化により登録漁船数が半分以下に減少。
○マダイ、キジハタ等の水産物の資源量と漁獲量の増大を目的とし、志津見漁港の泊地を含む周辺海域に増殖礁を設置。
○水産資源の維持・増大による水産物の安定供給体制の構築が期待される。



背　景

- 水産資源の減少による漁獲量の減少や、漁業者の高齢化等による廃業や廃船が進行し、平成7年時より登録漁船数が半分以下に。同時に地域の過疎化や活力低下も進行。
- 平成28年度より、浜の活力再生プランに基づき、ブランド化推進や販路拡大、地産地消・魚食普及の推進、水産資源の維持・増大、漁場環境の維持・改善等の取組を実施。

有効活用の内容

- 幼稚魚を保護育成するための増殖場と効率的に漁獲するための魚礁を一体的に整備し、マダイ、キジハタをはじめとする水産物の資源量と漁獲量の増大を目指した「水産環境整備事業基本計画（東予地区）」を策定し、志津見漁港の泊地の一部を含む漁港周辺において20基の増殖礁を設置。
- 志津見漁港内は水深10m以内の浅海域が広がっており、漁港内で実施している稚魚放流事業との相乗効果も期待できるため、泊地を設置場所として選定した。

活用した漁港施設	水域
実施時期	令和元年～3年
実施主体	今治市
活用した事業	水産環境整備事業
実施した手続き	財産処分（目的外使用）

志津見漁港

期待される効果

- 稚魚放流事業やモニタリングに係る作業の軽労化。
- 水産資源の維持・増大による水産物の安定供給体制の構築。
- 交流人口の増加や移住者、後継者の増加。
- 平成17年度から開始されたキジハタの稚魚放流事業により、平成23年度には漁獲量が約20倍（20トン）まで増加後、横這いの推移であり、近隣域への設置による細やかな管理により、更なる資源増大を期待。